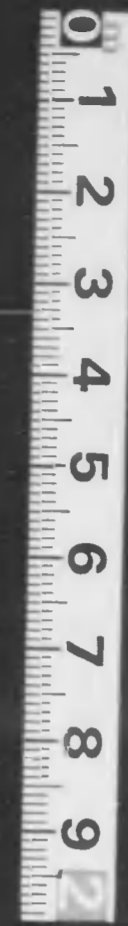


週寫
報眞

情 報 局 編 輯
九 月 一 日 第 二 百 八 十 七 號



ひとくれの土にもひそむ
瑞穂の國の尊さを思ふ

その恵みあますなく耕し穫り
のこりなく戦ふ力とす

たゞわれらが汗と決意のみ



「時」の立札は他へ轉載その他に御利用下さい

食糧は國內自給だ

肥料飼料自給の草刈に學徒も敢闘



戦局の推移に鑑みて来年こそは是非でも食糧の國內自給をなすべしとけなければなりません。これをなすためには今度、政府では土地改良事業等を中心にして、今後二年間に米麥三百五十万石の増産を目ざす第三次食糧増産対策を決定しました。

この対策の主眼とするところは土地改良事業の飛躍的な増進にあつて、特に緊急な施設として暗渠排水、客土事業、小用排水事業に重点をおき、このためには土管、セメント等の資材なども確保につとめる一方、石や竹や粗葉等を活用したり、助成金等も思ひきつて大幅に増額を行つたりして、急速に完成させようといふのです。その他、花卉、果樹等の不急作物を抑へ、陸稻の甘藷への作付轉換等をはかつて、あらゆる土地の活用を強化するとともに、これらに必要な農業努力を確保するためには、農村努力の他部門への移動を抑へ、また學徒の動員強化などについても特別の方法が講ぜられることになつてをり、農業技術の徹底指導をはかるためには、各農事試験場を實際的な技術指導機關として動員する等、あらゆる緊急対策を網羅した強力なものです。さて實際にこれを實施するためには非常な決意と思ひきつた措置を必要とする場合もあり、政府も思ひきつた決意と措置をもつて指導に當らうとしてゐるのであります。今日この時、國民のすべてが事の重大さを十分に認識して、主要食糧の生産に、配給消費に、唯黙々としてこの重大難關を突破する覚悟を固めてかゝらうではありませんか。

↑ 堆肥、飼料を増産せよと廣英たる東京郡小金井大農地の草原に挑み、したる汗をぬぐひもあへず利鎌をふるつて敢闘する青山學院 明治大學の學徒草刈部隊

外米の輸入を止めればこれだけの戦力が生れる

に假
外米百万石(六十万石)
はにめたぶ運を

船

六十八万トンを要し

この船でボーキサイドを運べば
アルミニウム十七万四千噸を得られる

はにめたすか浮を船

假に

米一合と甘藷百三十
匁の熱量と同じとして

甘藷を食べるとすれば
甘藷七億九千万貫を要し

食糧は国内自給

これで飛行機を作ると
二万五千機

一億國民が皆
で食べると二
十六日間甘
藷だけを食べ
ることになる

この甘藷を作るためには
約二十万町歩を要する

外米の輸入を止めるにはこれだけの増産が必要だ



見事に実った 轉廢業者の開拓農場

食糧は国内自給だ

次城縣

見渡すかぎり茫々たる塩田地へ今日も開拓の兵器を操り出陣です。苦心の甲斐あつて二重のやりに半年前の荒地には稲の穂が出揃つてゐます。満足さうな顔付で種抜きをやつてゐるこのお百姓も、今年の春まではおせやさんや洋品屋さんだつたのです。



新開地を假して田圃にするには、水を引くことが第一である。この作業は、開拓者にとって最も重要な仕事の一つである。



戦時食糧の増産をめざして、東京都はもと、帝都の周囲に「戦時開拓農場」をつくり、帝都からでた轉廢業者のうちから希望者をどしどし入植、開墾させてゐます。『寫眞週報』はすでにこのうち、次城縣潮来町内、浪速開拓農場の開拓に向つた約百名の轉廢業者が、浪澤地を水田とし、早苗を植ゑつけ、その後の秋に本年六月二十三日就緒を祝つたが、轉廢業者諸君がなれば、鋤鋤に血汗を流して作りあげた田圃は、その後、一轉となりなつたにせうか。また轉廢業者諸君はその後どこまでお百姓になれたか、今後どうなつて居るのか、『寫眞週報』は再び浪澤地を開拓農場に運び込んでみました。

六月七日から始つた秋作は、早くも第三期の終りに近づいてゐます。まづ嬉しいと思はれたのは、この夏のはじめ、田圃をした七十五町歩の新田に青々と稲は育ち、砂が頼もしく用事つてゐたことです。

百名の開拓者のうち、こゝに到着することになつた五十名の人たちのためには、家も建ちつゝあり、例に十七家族が田圃をあとに新生活をはじめてゐます。残り五十名はといふと、これらの諸君は農地開發隊の開拓した他の農地へ移り、今秋開墾することになつてゐますが、この農地は早稲までには二百町歩まで擴大することになつてゐるので、みな冬天下をいとはず、誰のやうに汗を流しながら、残る浪澤地の乾拓に當つてゐます。開拓が速くは、こゝに開墾する諸君には一家族當り二町歩の水田が配られることになつてゐますが、開拓の急ぎ、牛馬の養ひに、開墾者諸君の強切り方は大したものですよ。



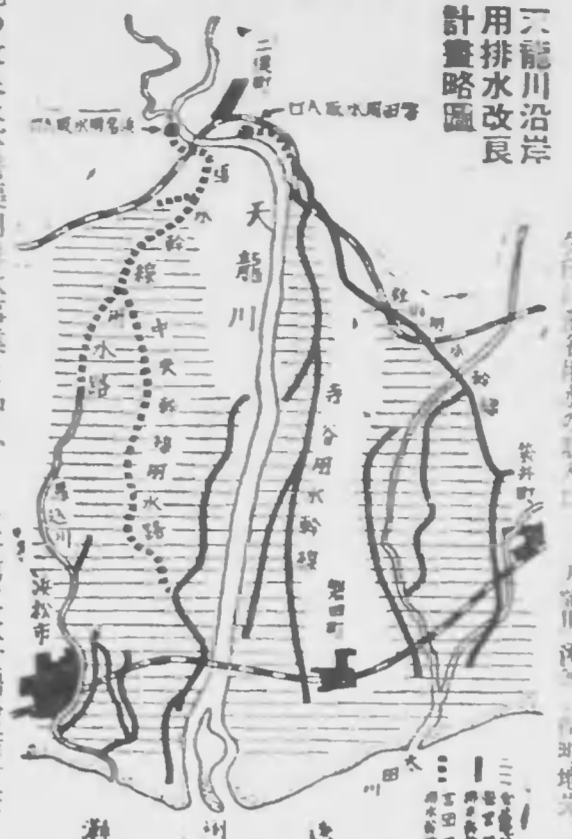
今日も開拓者たちはきびしいやうな暑さの中、住宅建設に忙しさを覚えてゐる。住居建設は、開拓の重要な仕事の一つである。



暑くて、新生活生活者や石油ラングの生活に不足を感ずる。その中に楽しみが結核菌も潜んでゐる。

九千町歩へ引きこむ 天龍の水

食糧は国内自給だ



農地の改良及び昭和三十二年用水事業を中心とした第二次食糧増産計畫が発表されたが、わが國のやうに改良工事を施す耕地の非常に多いところでは、これによる米の増収は恐らく二、三割にも上るであらうといはれてゐる。今回の増産對策の要綱によつても、第一に土地改良事業の急速な推進といふことがより上げられ、農地の開發事業實施については、既定の計畫に檢討を加へ、急速に效果のあがらないものは一時これを中止し、農地開發事業の事業にも適當な調整を加へ、その餘力を土地改良等に活用することとなつてゐる。そして本年度の農地改良の目標は、暗渠排水、客土事業約四十万町歩、小用排水事業による受益面積六十万町歩を擴充することに置かれた。

兵器とともに戦争遂行上に絶対必要な食糧を確保するためには、生産に當る農民や、消費者である都會人等、一億全國民が全力をこゝに集中しなければならぬが、更にまた現在國家としても既定計畫に基づき、急速に土地改良を施して、勝つためには一糧でも多く米の増収をはからうと必死になつてゐる。

天龍川沿岸の農業水利改良事業は、この國家事業の一部であつて、天龍川の兩岸に跨る濱松市、濱名、磐田の兩郡の大部分並びに引佐、周智二郡の一部を含む總面積八千九百三十五町歩に亘る田地に對して、天龍川の水を潤澤に供給しようとするものである。農地開發事業はこの事業は、昭和十七年六月に起工してから其後幾度も工事を進めてゐるが、地元町村民の努力、供出や、營團指導者の熱心な指導及び縣營事業の進捗と相俟つて、工事完成豫定の昭和三十二年をめざし急速にはかどつてゐる。この水利改良事業が完成するとともに見込まれる増収高は、米約二万二千石、麥二万三千石となり、なほ別に濱名平野の排水をよくして水害を除き、濱松市に對しては工業用水を供給するといふ一石二鳥の利益を擧げ得るものである。

濱名、磐田兩郡用水の取入は暗渠によつて導かれるが、この兩暗渠に並んで、濱名用水事業も進行中である。



昭和三十二年に生きた、新米の食糧増産だ。水と汗、昭和三十二年用水事業、町村民の供出努力により、米と水と進行してゆく。



磐田用水路の一部は既に完成され、取入口の完成を待つてゐるが、寺谷用水口から滿々と水を流してゐる。



天龍川沿岸農業水利改良事業によつて、ゆたかにうるはされる一軒九千町歩の田地。



世界の食糧戦争

日夜想像に絶した困苦に堪へて、しかも苛烈な敵の反攻を警戒してある前線將兵を思へば、銃後のわれわれはかりそめにも「糧がへつては戦は出来ぬ」などと口に出してはならない。だが、食糧は何といつても戦力の根柢をなしてゐる。前大戦でドイツの逆封鎖にあつたイギリスが食糧難から崩壊の一步手前にあつたことは周知の事實であらう。

幸ひわが國では、瑞穂の國の名に背かず、現在の戦局から考へるとまだ「驚くほど豊饒な食糧に恵まれてゐる。だが、最近の食糧事情は決して樂觀は許されぬ。食糧自給の萬全に、あらゆる創意工夫及び運石の勇猛心が要求される所以である。いま運石及び米穀の食糧事情、即ち敵味方とも正に血みどろになつて食糧戦に突入してゐる實情を述べ、他山の石としたいのである。

イタリア

イタリアの政變は、食糧事情の逼迫に伴ふ國內情勢の不安がその一つの原因をなしてゐる。これは外電が報じてゐるが、國內の食糧自給の確立如何は、戦争遂行に非常に大きな影響をもつてゐる。この點イタリアは多年空襲の苦い経験を經てきただけに、特に食糧の確保がとられて来た。

殊に今年度の收穫期を迎へて、政府當局は相當思ひ切つた對策を講じてゐる。まづ、去る七月一日から全國二十万の大學生が、男女を問はず農場に動員された。海軍科及び醫科の學生が軍需工業方面に配属され、また軍務、公務にある者以外は絶対に例外は認められない。また一般の女子動員も實現し、十八歳から二十四歳までの女子で家事のために手を離さない以外の者は、とりあへず農業期の收穫作業に召集されることになり、同時に十八歳から三十六歳までの男子で軍務に服さず、一定の勞務も持つてゐない者にも同じく動員令が下された。なほ十八歳から三十六歳までのユダヤ人にも、この民間動員令は適用され、かく

て戦後の増産戦線は一役と強化されたのである。

一方、農産物の統制はどうかといふと、すでに一九三五年六月、有名な小麦アマツシ制を施行して、小麦の強制買上、貯蔵及び管理を實施し、更に相次ぐ對伊經濟封鎖に直而して麻、サフラン、葉巻、玉蜀黍、米、オリブ油、羊毛、綿等まで統制の範圍を擴大して國家管理の形態をとつてきたが、今次大戦の増産と共に統制方式を一層強化し、遂に今年五月十五日附動員令をもつて一切の農産物は國家の食糧と見做し、何人に對してもその自由處分を認めず、といふ最後の命令まで發せられた。

これと同時に、全國に設けられた六千の自給隊といふべき農産物地方管理事務所も一齊に活動を開始し、全イタリア四百五十万の農場について、綿密な農耕地及び労働の検査が行はれる一方、生産に關する競争、監督が行はれるやうになつた。小麦を例にとれば、農家の申告が正しいかどうかを實地に確かめるばかりでなく、農場における收穫及び製粉作業まで直接役人が立ち回り、その場で出来高を記載する。そして、農家一年分の出来高を記載する。そして、農家は耕すことを忘れて「まづた」といふのが實情で、果して農地開發などといふ勞の多い積極策が完遂されるかどうか。とりわけ小麦の耕地擴大に躍起となつてゐる政府は、昨年において小麦の新耕地六十万エーカー、さらに今年中には百万エーカーの擴大を目指してゐるが、英國農業の實情からして、かかる飛躍的事態に應じて得るかどうかの重要問題は忘れ切つてゐる。

イギリス

なほ實情には、まづ第一に、なるべく時間と土地を要しないで多量に生産できる食糧の増産を目的とし、動物性食糧より植物性食糧への轉換を期し、廣い面積を必要とする高價な野菜の栽培禁止、栽培簡易で多量に生産できる野菜の増産奨励などに懸命な努力を拂つてゐる。従来、動物性食糧に馴れてゐる歐洲人には、植物性食糧への轉換は非常に苦しいやうであるが、ドイツ國民はよくこれに堪へ、植物性食糧を多量に攝取して動物性食糧を補つてゐる。

次にイギリスはどうだらうか。前にも述べたやうに、前大戦ではドイツ、オーストリア、ロシア、ブルガリアを敵戦に陥れたのは食糧の缺乏であつたが、これらの國が倒れる前にイギリスもまた殆んど倒れかゝつてゐたのだ。これは前大戦當時のイギリス首相ロイド・ジョージが一九三七年政府に與へた警告であるが、その後イギリスの食糧政策は依然として海外輸入と貯蓄の維持に依存するのみで、國內の食糧増産などはさして意を用ひてゐなかつた。

ところが一九四一年、潜水艦による船舶の喪失が激増し、また歐洲戦線の擴大や大東亞戦争の勃發によつて、船舶不足を極度に感じはじめると、大慌てにあつたイギリスは、はじめて國內の食糧増産に乗り出した。従つて時すでに遅し、いづれも湖邊式であることはいふまでもない。

第一の増産對策は耕地開發計畫で、このため開發獎勵基金を出したり、いはゆる「農業軍隊」を各方面に送つたり、農産物の價格を釣り上げて農業利潤を保證したり、および考へへの及ぶ限りの對策を講じてゐる。しかしイギリスのある經濟理論家が敢て

「イギリスの農業は小企業であり、農民は耕すことを忘れて「まづた」といふのが實情で、果して農地開發などといふ勞の多い積極策が完遂されるかどうか。とりわけ小麦の耕地擴大に躍起となつてゐる政府は、昨年において小麦の新耕地六十万エーカー、さらに今年中には百万エーカーの擴大を目指してゐるが、英國農業の實情からして、かかる飛躍的事態に應じて得るかどうかの重要問題は忘れ切つてゐる。」

第二の對策としては農業機械化の促進をはかり、國産のほかにアメリカから武器貸與法でトラクターの大規模輸入をしてゐるが、イギリスの經營農地は、大部分は五十エーカー(約二十町歩)以下のものであり、八十五パーセントは百五十エーカー以下である。これではいくらトラクターを持ち込み、農産物價を釣り上げて「さあ、これで大量生産すれば大儲けだ」と唱へておかれても、小經營者にはどうもやうもない。昨年一月、農業機械化局といふ官廳を設け、設けた地方にはトラクターやその他農業機械の配給所をつくらせてゐるが、利用してゐるのはごく一部分の大經營者だけである。

次に農業労働力の補充についても、婦人農業軍の組織、未熟練労働者の訓練、さらに俘虜、兵隊、婦人、學生、生徒などの臨時手傭ひなど、周到な對策をとつてゐる。中でも婦人農業軍の組織に最も力を入られてゐるが、軍需工業方面の勞賃との拮合上、成績は上つてゐない。

ともかくこの戦争で、食糧自給のできぬ悲境を骨身に徹して味はつてゐるイギリスは、如何なる困難を冒してもこれを實現しようとする、あらゆる方策を講じてゐる。徒らにイギリスの食糧困難を過大評價する愚は戒めなければならぬ。

ドイツ

ドイツ政府は、政權獲得の初めから食糧の自給自足を目標とし、あらゆる努力を傾けて食糧増産に邁進して来たので、政府の統制指導の宜しき農民の努力によつて、大體その目的を達し、今次歐洲戦争の對發當初には、新たに外國からの食糧輸入を、ごく少量にとどめて得る状態になつてゐた。しかし、その後戦争の推移と共に諸種の困難から、ドイツの食糧事情にも相當の困難が伴つてゐることはいふまでもない。現在ドイツは「ドイツの食糧はドイツの土地から」といふ原則に歸り、あらゆる手段を盡して食糧増産に邁進してゐる。

アメリカ

大東亞戦争直前のアメリカの有名なグラフ雑誌「ライフ」を見ると、「アメリカは世界で最も食糧に恵まれた國であり、現在どんな食物でも自由に買へるのはアメリカをおいてほかにない」と盛張つてゐる。更に「アメリカ人は目下、イギリス人の一週間の食糧を一回に食つても、別段食へ過ぎたと思はない」と誇示してゐる。その後一ヶ年半の戦争を經過し、持てる國アメリカの最近の食糧戦線はどうであらうか。

昨年度のアメリカ農産物生産高は、一年に比し十四パーセントの増加を示し、一九三八年の記録を凌駕してゐる。しかし昨年十一月、農務長官ウィッカードが本年の生産目標として發表したものは、小麦を除く他の品目については昨年より遙かに大きな数字が示されてゐる。しかもウィッカードはこれを以て最少限度の必要量であると述べてゐるが、昨年生は以後のアメリカの食糧生産の實情は進化的一路を邁つてゐる。

従つてウィッカードの増産目標の達成も現在では危ぶまれてゐる。アメリカの食糧増産の隘路としては労働力の不足、農作物の播種、輸送力の逼迫、農産物價が一般物價水準に比して低廉であることなどがあげられるが、そのほかアメリカは反輻輳軍の兵器廠の上に兵站基地としての役割も果さなければならぬ。

即ちアメリカの全農産物の四分の一は、アメリカおよび反輻輳軍隊用に先約されてゐる。さらに本年度においてはソ聯ならびにイギリス向食糧輸出の増加が要請され、特に援ソ輸出の増大は必ずの状態にある。一方、國內におけるインフレーションは、アメリカ國內

だが、ドイツは戦前すでに最高度の耕作方法をとり、利用し得る土地と勞力を活用し切つてゐるので、その増産方法にも劇的、飛躍的なものは、當然期待できない。従つて現在増産に對するドイツの努力は、人的には停務を利用し、空間的には空閑地の活用、質的には代用品を奨励し、貯蔵品より質的食糧に切替へんとする等にかつてゐる。

休閒地利用の實情をみると、まづ全國のガルテン(花園)所有者に對し花の栽培を止めて、その代り野菜類の栽培を行はせてゐる。ガルテンといふのは都會の内外の空地を十坪、二十坪と區切つて、それら都會生活者が養蜂園を作つたり、テニールアップを栽培したりする週末の保養を目的としたもので、その数は全國では約二百五十万に上つてゐる。これら種れる野菜、果實は毎り難い量に達してゐる。このほか公園、ゴルフ場、競馬場など、これまで青々とした芝生であつた所は遠慮なく掘り返されて、薯蓣かキャベツ畑となつてゐる。國內の空地といふ空地は悉く増産に動員されてゐるといふこと。

次に注目すべきことは、停務ならびに外國人労働者がドイツの食糧増産に多大の貢献をしてゐることである。現在約三百万といはれる停務の大部分は農村に配属され、七百万の外國人労働者の中でも相當数が農業に従事してゐる。夫を、父を、息子を、戦線に送つたドイツの婦人達が、女性の身で健康にも數十名の停務を指揮してゐるのは、國內に至る所で見受けられる光景であり、夫や息子を失つた悲しみにもめげず、また手不足や昨年の如き大寒氣にも堪へて、ひたすら食糧増産に挺身するドイツ農村婦人の姿には、涙ぐましいものさへある。

一般の食糧品需要に拍車をかける形勢にあり、かくて食糧不足は漸く全國的に深刻となり、現在ではあらゆる食糧品に配給制が實施されるに至つてゐる。

そこで努力目標としては、農村出身兵五千万を削減せたり、さらに本年度の農村壯丁三百万に徴兵隊員を削減し、これらか興味あるのは、勝利國「上名づけられ小農園を一般の間に普及せしめよう」としてゐること、今年二月、ウィッカードは都市に千二百方、農村に六百万の「勝利農園」を開設する計畫を發表した。

かゝる努力にもかかわらず、農産物價をめぐる政府對農關係の不調、さらに悪天候による今年度の悲觀的な農産物收穫豫想高など、今後アメリカの食糧事情は、戦前の豪語に似し一層の混亂に陥るものと思はれる。

甚だ面白いのは、同じライフ誌が、大東亞戦争勃發直後の號で「日本特輯」を行ひ、いふ「わが國の國力を分析した中で『食糧のため、日本が敗れることはあり得ない』と斷定してゐることである。

敵でさへ、わが國は食糧戦には不敗だと太鼓判を押してゐるのである。萬一、食糧戦に敗れるやうなことがあつたら、敵に對して大恥をかきことになる。われわれは總力をあけて食糧自給の確立に萬全を期さなければならぬ。



未来の文藝士も 兵器技術の實物訓練

京都技術科學館

決戦の空襲から傳へられてくる幾多の大戦果を聞きたびに、わが近代科學兵器の目ざましい發達と、これを機械に駆使する優秀な技術に「よくぞこゝまで」と限らない心算を感じないではゐられません



科學的先進國を鼻にかける米英の鼻つまみを見事にたゞき折つたこの戦果の陰に、黙々として不斷の研鑽を続けてきたわが科學陣の血の滲むやうな努力があつたことはいふまでもありません。だが今日、それに安んじてゐてよいでせうか。

最近の南海、北洋の決戦場から傳へられてくる敵アメリカの科學兵器には、侮りがたいものがあり、戦陣の様相をますます「懐怖なものにしてゐます。この背後にはアングロサクソンの全智全技があつて、わが海兵を殺傷し、われを撃破しようとしてゐる敵科學陣のあることを知らねばなりません。

これを撃破するために――飛躍的な兵器を、より優秀なものをつくり出す、より多くの科學者を、技術者を、發明家を輩出させ、的確に機械操作のできる人を、より多く科學戦線に送りだすためには、先づわれわれ一般國民の科學知識や技術科學の程度を一段と高めなければならぬのです。かうした必要から生れた技術科學指導機關の一つとして、こんど京都市に「京都技術科學館」が設立され、一般國民をはじめ、特に青少年に兵器兵器の分解、組立、操作、修理等を行はせて、理論とともに實地作業を體驗させ、考案發明心を指導し、誘發してゐます。

(二)に掲げたのは大學、専門學校の學生中、法科、經濟科、文科等の平素科學技術と縁の遠い學生に對して、このほど行はれた軍事科學の兵器技術に關する基礎訓練です。

一日の實習を終へて、掌にできた豆を貴重な戦果のやうにさすりながら、科學の世界にひたひた得た喜びと、勝つための日本の科學技術を語り合ふ。



二 電氣通信機器の修理にはハンダ溶の作業が大事だ。なれぬ指導者の吹く笛に合はせて一せいで下すハンマー。タガネの頭を確實にこつこつとこつこつとこつこつがしい



一 匪一毛の狂ひもない「バイド」の先を懸命にみつめて旋盤と取りくむ文學部の學生



一 「心算」といふよりも、機械の分解説明に、はじめて納得する動への偉大さ。彼等には、今日から「自動車の交通機関」は、はじめての経験だ。



二 機軸、精巧に動く操縦装置。今さらのやうに科學する科學士



このほど、わが国で最初の點字圖書館が東京都荒川区西葛西町二二に落成した。館長本館一夫氏二氏は同じく盲人で、六歳の折失明以來種々辛酸を経たうちにも、盲人が文化的に餘りにも恵まれてゐないのに憤憤、氏は盲人圖書館の設立を自己の使命と信じ、昭和十五年十一月十日、紀元二千六百年記念事業の一つとして、私費を以て盲人圖書館を設立經營することになつた。以來、自宅を以て各地への點

字書の貸出や蒐集に挺身し、現在までに利用者一千二百名、貸出冊數毎日一千冊を超え成果を収めてきた。この内部的な膨張と外部からの要求によつて、軍事保護院はじめ公私學校が援助に乘出し、雜豫算三万三千圓で昨春から工事に着手、遂に完成したものである。この失明勇士や一般盲人に明るい希望を投げかける盲人圖書館の事業としては、昭和三十二年、北は神人から、南の津は



眼の見えな人たちに 點字圖書館



愛犬に導かれて圖書館を訪れる失明勇士
保負も一様になつて、親切に案内して下さる。

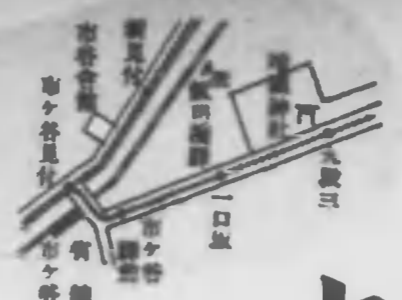
楽しい讀書のひととき。一番愛好されるのはやはり文藝書ださうである。

點字に餘念のない大日本
點字奉仕團長後藤静香氏

團員に點字の講習



しんと静まりかへつた敷地の宿舎、女中さん達のふき掃除するさま
めきだけが廣い庭園のそここから静かにつたはつてきます



上京遺家族の ための宿舎

市谷會館 東京

「ここが會館ですから、かう行つてかう行くと宮城へまわれます」と土地不案内な遺族には、地図を見ながら細かく道順も教へてもらへます



「まわりの旅館のやうなわたしのしきもなくて、明るい静かな洗面所は
ゆつくりと旅の上の疲れを洗い流すことができます

軍人接護の手は次ぎ／＼に擴げられ、すでに餘すところないといつてもいい程にもなり、各種施設も完備されて参りましたが、又一つ新しい施設として軍人遺家族の宿舎、市谷會館が帝都に開設され、地方から上京する遺家族の人々から感謝され、開館早にもかゝはらず山形縣からの三十八名、秋田の四十八名等と連日、團體、個人の宿泊客で賑はつてゐます

これは遺族財團軍人接護會の經營になつてゐて、軍人遺族、軍人家族、傷痍軍人、その附添、家族や軍人接護關係者なら誰でも泊ることが出来ます。泊るには市區町村長、團組長の證明書を添へた申込書を東京都牛込區市谷町一ノ八市谷會館に郵送又は直接持参すればよいのです。宿泊料も遺家族、傷痍軍人は一泊二圓五十錢、接護關係者、附添は四圓ですが、單なる商用、觀光等



「いつてらつしやいませ」と女中さんの聲に送られて、わか家の玄關からでも出掛けるやうな気安さが、この會館の一番の自慢です



靖國神社はすぐ近くです。體の不自由な人にも毎日参拜ができるといふ便利があります

の方は遠慮すべきで、遺骨の受取、靖國神社の参拜等といふ方に利用してもらはねばなりません。したがつて、滞在日數も大體三日位に限られてゐます

遺族の英靈神鎮まります靖國の御社を身近に仰ぐ都心の高層に和風建築の粋を盡した廣々とした平屋建に、真木瓦石を配した庭園、室内の家具調度等も現代民衆家の手になつた地方味豊かな民衆品に飾られ、不馴れな土地に緊張し、疲れて歸る遺族達にわが家のやうなくつろぎを與へてゐます



あの町から、この村からと、はからずもここに顔合わせた人達ではあります、遺族の名に結ばれるお互の氣持には、無言のうちにも通ひ合ふものがあります



わが子の英靈を迎へはる／＼と上京してきた老夫婦を迎へてくれたいのは、静かな落ちついた部屋とモンペの女中さんの優しい接待でありました



みんな揃つて朝毎に宮城と靖國神社を参拜できるやう、特に送拜所が設けられてゐます



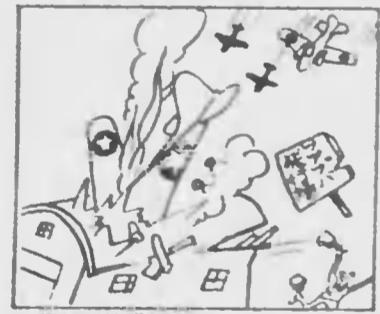
大東亞戰爭漫日誌 石川 進



夜暗にバドレの他の敵艦を襲撃



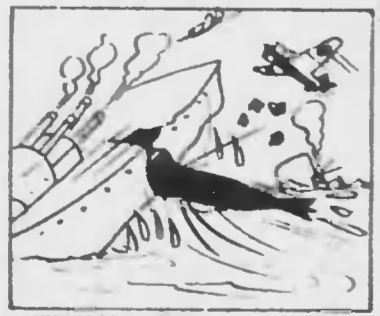
第六次英米英米英米



ニゲーンのア敵艦進地猛猛



北千の米機を海艦



海軍艦隊近附島ラベララベ



南艦隊の敵艦を破壊

お前の分も働くぞッ
木下 福雄
「お父つあん、ちや、あとは頼みますせ」
「しんへするな、お前の分もやーんと働いてみせるからな」



空襲必至 疎原賢次
「お構なら持ったよ」
「あなた、ゲートルよ、今月からこれを持ってゆくことになすつたぢやないの」

今日からこれに決めた
山川 哲
ある商店主が興喪と悔に出ました

一步前進
戦果擴大
寺尾よしたか
「お宅と共同攻撃をはじめて以来、燃料は節約できるし、手間は省けるし、おまけに不用になつた鍋釜はいつでも献納できるし、これ一石何鳥といふのかしら」



★表紙
出陣を前にしての学生達の訓練は、こいでも前に行はれた。即ち、全国の大学高等専門学校から選ばれた約三百名の学生は八月三日から二週にわたり、各二週間づつ千葉陸軍航空学校に入校し、炎天下汗みどろになつて敵艦の基本操縦訓練、敵艦隊の分散編隊訓練を受け、最後に北野野外演習を行つて、その経験を修了した。
「戦区内に設置されてゐるのと同じ要務に於て操縦の基本訓練を行ふ学生」

苗圃の床着競技大会 神本 高 勉 勇
林業地帯の名をなくすなど、且下伐採跡地や無立木地の大造林計画をたて、令島民一層となつて緑地化運動をつづけてゐますが、その基礎になる苗圃を育てるための、苗圃の能率や技術の向上を計らうと、令島官民経営の苗圃から選ばれた女子選手三十名を集め、豊原市工川苗圃で盛大な床着競技大会を開催、優勝者は二時間の床着木敷三千六百本の記録を上げました。
競技開始前、緊張裡に取調演習の訓示が述べられる。さあ種あるぞ。選手達は前に立てられた勸告苗圃名や姓名を記入した標札に答つて。
琵琶湖畔に鐘の聲 京都 大久保 孝一
不換不屈の海國魂を少國民に吹き込み、鐘の身軀を築へ上げよと、大阪市の學童訓練は琵琶湖畔大演習道場で行はれ、四千名の學童達は海國少年の意氣も高く、青松白砂の浜に猛訓練を展開した。
夜明けの敵前上陸だ、しぶきを上げて海の子の意氣は高いぞ、さら地め、知の路を駆足だ。はだかでお、二、駆足だ。敵へろ敵へろ、強くなれ 左頁上



る當くよすますま 手切丸弾

第十六回 賣出 九月一日より二十五日

抽籤 九月二十五日

一枚二円で一等券千円

でまれこ
枚-付に枚-十
が率籤當たつあで
枚-付に枚八
たしまりなと合割の

内閣印刷局印刷發行

<p>本誌を回覧に 本誌を、隣組や職場 で回覧するなど、出 来るだけ有効に御利 用下さい。</p> <p>前線慰問にも またお読みになつた ら本誌を前線慰問に 送りませう。送料は 内地と同様で封封あ るひは開封にして第 二種と明記すれば、 一部一錢です。</p>	<p>所 達 中</p> <p>全国各地官報 販 賣 所 書店・肆賣店 新聞販賣店 寫眞材料店</p>	<p>價 定</p> <p>▲特大號の場合は 其の都度御申込 金より差額を申 受けます。</p> <p>一部十錢 (送料一錢) 外函郵送に依 る地域は送料 共一部十九錢</p>	<p>寫眞週報 (禁轉載)</p> <p>昭和十八年九月 二十五日印刷發行 編輯者 情報局 東京都豊島区 水田町一ノノ一 印刷者 發行所 内閣印刷局 東京都豊島区水田町</p>
	<p>〔列強報週〕A4倍縮定縮はさき大の書体</p>		